健やかな妊娠・出産・子育て期を支える『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修の試みと評価

Development and Trial of a "Plain Japanese for Obstetric Staff" Training Program to Support a Healthy Pregnancy, Childbirth, and Child-rearing Period

〇齋藤恵子，　浅井宏美，千葉真希子，森　美紀，山口乃生子，林恵津子
Saito Keiko, Asai Hiromi, Chiba Makiko, Mori Miki, Yamaguchi Nobuko, Hayashi Etsuko
埼玉県立大学保健医療福祉学部
School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University

【背景と目的】

外国人住民に情報を伝えたい時に、多言語で翻訳・通訳するほかに、「やさしい日本語」を活用することが期待されている。

外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のため、健やかな妊娠・出産・子育て期を支える『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修プログラム開発を目的として、①保健医療従事者のニーズ調査、②日本語を母語としない外国人住民の感じる困難についてのインタビュー調査 、①②より③『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修企画・実施した。本稿では③『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修の施行と研修直後評価について報告し、本研修の可能性や課題について検討したい。

【方法】

１）研究方法

研究デザイン：無記名 Web アンケートフォームによる量的研究

対象：研修に任意で参加した看護職のうち、研修開始前に文書で研究の趣旨を説明し、研究参加に同意が得られた者のみを対象とする。

調査方法： 研修終了後、アンケートを実施し、研修の即時効果を評価。 なお、本研究全体計画では A 前評価、3 か月後評価、6 か月後評価を実施しているが、本稿では研修直後評価について報告する。

調査内容：属性、研修の理解度、新しい知識やスキルに対する自信度、やさしい日本語の使用意向

データ収集期間：2023 年 12 月～2024 年 2 月（第 1 回 2023 年 12 月、第 2 回 2024 年 2 月）

参加者募集方法：大学ホームページおよび A 県内産科医療施設等へ研修開催について周知した。

倫理的配慮：本研究は埼玉県立大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。（①23094、②23044、③23128）

２）研修内容

(1)導入：文化･宗教に配慮した関わりと医療現場で活用する『やさしい日本語』」

(2)「やさしい日本語」の使い方　解説

(3)ロールプレイ

各グループ毎に模擬患者さんを交え文章の言い換え・ロールプレイ

場面①妊婦健診での切迫流産妊婦との会話

場面②産後 2 日目の褥婦との会話

【結果】

研修参加者合計 15 名のうち 13 名から回答を得た（回収率 96.7%）。

参加者の年齢分布は 40-49 歳が 38.46%、50-59 歳が 30.77%、20-29 歳が 23.08%、60-69 歳が 7.69%であった。看護・助産師経験年数については 20 年以上が 38.46%、15-19 年が 23.08%、10-14 年が 15.38%、5 年未満が 7.69%、学生が 7.69%、5-9 年が 7.69%であった。

外国人妊産褥婦の対応経験年数については 5 年未満が 30.77%、20 年以上が 23.08%、10-14 年が 23.08%、未経験が 7.69%、5-9 年が 7.69%、15-19 年が 7.69%であった。職種別の割合は助産師が 76.92%、看護師が 15.38%、看護学生が 7.69%であった。

「やさしい日本語」を学習したことがあるかについては、「ない」が 83.33%、「ある」が 16.67%であった。研修の理解度については、「とても理解している」が 38.46%、「だいたい理解している」が 30.77%、「ある程度理解している」が 30.77%であった。

新しい知識やスキルに対する自信については、「だいたい自信がある」が 76.92%、「ほとんど自信がない」が 23.08%であった。今後、外国人に対して「やさしい日本語」を使ってみようと思うかについては、「とてもそう思う」が 84.62%、「そう思う」が 15.38%であった。

自由記述からの主な感想：

良かった点として、「実際に外国人の方とロールプレイを通じて実践的な学びが得られた」「グループワークの場面は現場でよくある場面だったので勉強になった」「具体的に現場ですぐに生かせると感じた」「外国人の意見が直接聞けたこと」が挙げられた。

研修の進行方法や教材に関しては、「とても分かりやすく、資料も見やすかった」「実践を交えていてとてもよかった」「和やかな雰囲気で、難しかったが楽しかった」との評価があった。課題として「もう少し時間がほしかった」等の意見があった。

【考察】

今回の研修では８割以上が「やさしい日本語」学習経験がない参加であったが、理解度については「とても理解している」から「ある程度理解している」と回答しており、理解度向上の効果があったと考える。新しい知識やスキルに対する自信についても約 7 割の参加者が自信を獲得し、実践的な「やさしい日本語」の使用意向を高める効果が認められた。自由記述の意見から、今後の研修では、時間配分の改善や現場ですぐ生かせる具体的表現例や資料の提供等の検討をしたい。

本研修は埼玉県立大学研究開発センタープロジェクト 2023-1「 多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のための実践研究」として実施した。

【利益相反】本報告に開示すべき利益相反はない。